

さいたま市長
清水はやと
2017(平成29)年9月号

清水はやと ニュースレター
KI-ZU-NA

絆

さいたま市を「しあわせ美感都市」へ

東日本の中枢都市を目指し、 災害に強い持続可能なまちづくりを推進

皆さまこんにちは。さいたま市長の清水勇人です。

今年の夏は、7月は炎暑が続きましたが、8月に入ると戻り梅雨のような長雨が続き、後半から再び暑さが戻るなど、不順な天候となりました。

私は各所で見られた短時間での集中豪雨などに対応できるように、浸水対策としての調節池の新設や河川の改修などを進め、災害に強い街を創っていきたくと考えております。

偉業達成にわいた今夏 スポーツの可能性感じる

さて第99回全国高校野球選手権大会では、埼玉県代表の花咲徳栄高校が初優勝の偉業を達成されました。その他の競技では、第23回世界バドミントン選手権大会においての初優勝を始めとして、第16

回世界陸上競技選手権大会男子400メートルリレーでの第3位など、世界レベルでさいたま市ゆかりの選手が大活躍しました。改めて選手の皆さまを始め、関係者の皆さまへ御祝いを申し上げます。

これらの偉業は、スポーツを柱としてまちづくりを生かしていることと取り組んでいるさいたま市にとって、スポーツの力の持つ可能性を大きく感じることが出来ました。

129万人を超える市へ これからの10年が重要

私はこの5月に行われた市長選挙におきまして、皆さまの温かいご支援、ご厚情を賜り、引き続き市政の舵取りを担うことになりました。

さいたま市は9月に129万人を超える自治体となりましたが、

一方で財源不足や公共施設の老朽化といった様々な課題が待ったなしの状態です。これからの10年が、さいたま市にとって最も重要な時期であるという認識のもと、東日本の中枢都市として持続可能なまちづくりに積極的に取り組んでまいります。

さいたま市の未来を さらに前へ進めたい

平成21年に市長に就任以来8年間、「市民一人ひとりがしあわせを実現できる”絆”で結ばれたまち」「誰もが住んでいることを誇りに思えるまち」を目指して日々全力投球してまいりました。これからもその思いを胸に、皆さまにお寄せいただいた期待と責任の重みを感じながら、さいたま市の未来をさらに前へ進めていきます。



プロフィール 昭和37年3月生まれ。日本大学法学部卒業後、(公財)松下政経塾入塾(第7期生)。衆議院議員公設第一秘書、埼玉県議会(南6区見沼区)2期を経て、平成21年5月さいたま市長に初当選。平成25年5月得票を大きく伸ばして再選し、平成29年5月に過去最高得票、全区で第1位を獲得して3期目の当選。著書に「2010年霞ヶ関物語」(共著/二期出版)、「犯罪のない安全なまちをつくろう」(共著/埼玉新聞社)、「さいたま市未来創造図」「スポーツで日本一笑顔あふれるまち」「もっと身近に もっとしあわせに」(埼玉新聞社)などがある。さいたま市社会福祉協議会会長、全埼玉私立幼稚園PTA連合会会長、共栄大学客員教授ほか。2013マニフェスト大賞首長グランプリ受賞。

清水市政3期目がスタート!

清水市政2期8年間で、さいたま市は全国20政令指定都市の「幸福度ランキング」が1位になりました。これは「しあわせ倍増プラン」や「行財政改革推進プラン」、「成長戦略」などを策定し、その施策を着実に

実行してきた成果だといえます。

3期目がスタートして3か月。引き続き「市民満足度」90%の達成と持続可能な発展を続ける東日本中枢都市を目指し、市民一人ひとりがしあわせを実感

できるさいたま市を創ります。そのためにも“地域や生活者が主役のまちづくり”と“徹底した現場主義を貫くこと”を大切にしていきたいと思います。



地域や生活者が
主役のまちづくりを
進めていきます



徹底した
現場主義を
貫いていきます



市民一人ひとりがしあわせを実感できるまち

topic1
世界に発信!

米国ワシントンD.C.を訪問

さいたま市のスマートシティの取組を発信

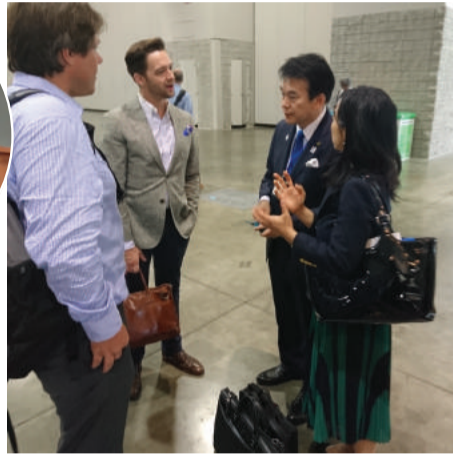
清水市長は8月26日から30日にかけて、米国ワシントンD.C.で開催されたアメリカ国立標準技術研究所(NIST)が主導するIoT技術を活用したスマートシティの構築を目指す「GCTC EXPO 2017」(グローバル・シティ・チームズ・チャレンジ・エキスポ2017)に参加、さいたま市の取組をトップセールスしてまいりました。

この会議は、NISTが主導するIoT技術を活用したスマートシティを構築するため、課題を抱える自治体、研究開発をする大学、技術の展開を目指す企業がEXPOに参加し、

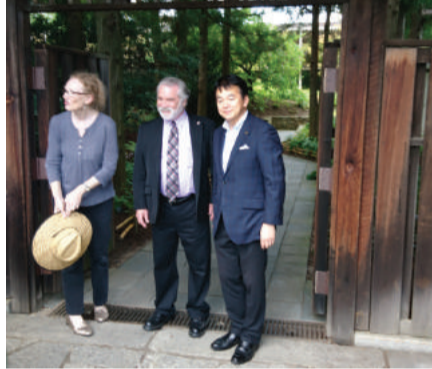
意見交換・情報共有を行うことで課題解決に取り組むことを目的としています。日本の自治体としては、唯一の参加です。参加した100超のチーム、300超の大学・企業からの参加者を前に「スマートコミュニティサービス向け情報通信プラットフォームの研究開発」や「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の重点プロジェクト「スマートホーム・コミュニティ」、浦和美園地区におけるIoTを活用した先進的事業などについて慣れない英語でスピーチし、さいたま市におけるスマートシティの取組を世界に発信しました。



「GCTC EXPO 2017」で、さいたま市の事例を講演



講演終了後、さっそく米国企業から声がかかる



国立樹木園、盆栽盆景園を視察し、米盆栽連盟代表や学芸員らと意見交換



ワシントンD.C.政府担当者と自転車シェアリングプログラムについての意見交換



ラウンドテーブル=エキスポ参加者による会議。自治体首長、政府関係者、企業の最高経営責任者らと



さいたま市の安心 安全について市民とのタウンミーティング



青少年のスポーツ大会開会式で選手宣誓



季節を彩る「朝顔市」を訪れる



大宮区役所新庁舎の「地固め祭」に参加



地区の新年会で、さいたま市の将来を語る



指定都市市長会シンポジウムで、さいたま市の取組を紹介



夏祭りでの市民の皆さまとともに御輿を担ぐ



地域の皆さまと合唱を通じた健康活動



「世界盆栽大会」でご挨拶



ノーマライゼーション条例の職員研修でポッチャの体験

topic2
国の力強い後押し!

大宮駅周辺地域を「都市再生緊急整備地域」に指定

東日本の対流拠点として大きく前進へ



▲指定された大宮駅周辺の地域 (さいたま市が公表している資料を加工して作成)

大宮駅周辺地域を都市再生緊急整備地域に指定する政令が7月28日に閣議決定されました。東日本の対流拠点であるさいたま市では、現在、大宮駅グランドセントラルステーション化構想を推進しています。

今回、大宮駅周辺地域130ヘクタールが、市街地整備を重点的に推進するため国が政令で定める都市再生緊急整備地域に指定されたことは、国の力強い後押しを得たこととなります。この指定を契機として、民間事業者に対する建物の容積率の制限緩和や金融、税制支援などの優遇措置を設けて民間参入を促し、開発をより加速化させます。



大宮駅東口大門町2丁目中地区第一種市街地再開発事業の完成予想図 (平成28年3月に事業計画の認可がなされ、平成33年竣工を目指して事業推進中)



大宮駅西口第3-B地区第一種市街地再開発事業の完成予想図(全景及びB棟) (平成29年3月17日 市街地再開発組合設立認可がなされ、平成33年中の工事完了を目指して事業推進中)



出典:さいたま市ホームページより

さいたま市長選挙の得票報告

平成29年5月21日にさいたま市長選挙が行われ、現職の清水はやと市長が過去最高得票、全10区で第一位を獲得して3期目の当選を果たしました。

得票数、得票率ともに大きく飛躍!

有権者数 1,038,939人
確定投票率 31.44%

	年齢	党派	新旧	当選	得票数	得票率
清水 はやと	55	無	現	当	203,953	63.51%
中森 ふくよ	67	無	新		63,200	19.68%
前島 ひでお	64	無	新		53,971	16.81%



駅頭に立ち政策を訴える



力を合わせた同志たちと当選を祝う



3期目を迎えた登庁初日



日本一地域の絆で結ばれたまち